

九州産業大学大学院

KYUSHU SANGYO UNIVERSITY GRADUATE SCHOOL



令和2年度 研究成果発表会

親教育プログラムの日米における発達と 再構築に関する考察

博士前期課程

国際文化研究科 国際文化専攻 教育学研究分野

野口紀子

主査 久木山健一
副査 松原岳行
佐喜本愛

研究の背景

- 筆者が1991年に出会った「アクティブ・ペアレンティング（AP）」は、親子関係構築の視点で体系化された親教育プログラムである。10回の講座で怒らないしつけと笑顔の関係づくりを学び、ストレスを軽減できる。
- 筆者はこれを学び自らの子育てに役立て、27年間親たちに講座を開催してきた。その効果を実感した半面、全ての親へ行き渡りにくい要素も見えてきた。
- そこで、親教育プログラムの変遷を探り、今後多くの親たちへ届くよう、現状に適した新たなプログラムの開発を試みたいと思った。

研究目的

- そもそも親教育プログラムはどのようにして成り立ち、今後はどのようにして広く親たちに行き渡らせることができるのか、それらを調査、検証し、考察する。
- まず親教育の器である家庭や社会の状況について、次にアメリカと日本それぞれにおける戦後の親教育の変遷について調べる。
- AP講座の内容を概観し、アメリカと日本のテキストが時代と共にどう変化してきたかを調べ考察する。
- 筆者独自の視点で新たなテキストの構想を練り試作する。

研究の概要

図1-1：アドラーからポップキンへと至る
親教育プログラム関係者の図

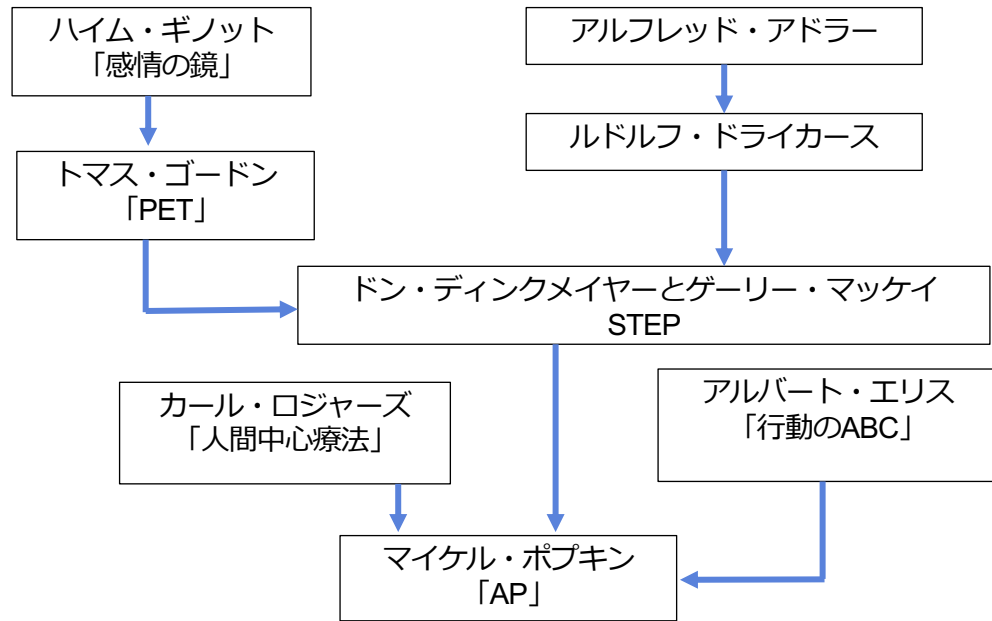


表5-2-2 ベアレント・スキルアップ講座「ガミガミ言わずに育てる方法」～子育てを楽しもう！～
2週間に1回 ステップIを5回、ステップIIとIIIを3回シリーズで行う

ステップ	幼児期・学童期・思春期の全てに共通	幼児期	学童期	思春期
I	今困っていることを解決しよう！ 1. 子どもの発達を理解する 日常の困った問題を出し合う ・「出来事」と「自分と子どもの感情」を理解する 2. 「出来事」に対する「自分の受け止め方（考え）」を検討する 3. 自分の行動を選ぶ 子どもに受け入れられるやり方の紹介 ・メッセージ ・当然の結果（見守る） ・論理の結果 ・誰かに相談 ・家族で話し合う 4. ABCサイクルの説明（悪循環から好循環へ） ・問題を出し合い、これまでの学習の実践と成果を話し合う 5. これまでの復習とフリートークを中心に	問題として考えられるもの ・朝の支度がぐずぐず ・食事の問題（マナーの悪さ、好き嫌いなど） ・言うことをきかない ・好きなことしかしない ・協力的でない ・しつけをどう考える？ ・5つの基本的生活習慣を身に覚えさせる	問題として考えられるもの ・忘れ物が多い ・宿題をさっさとしない ・勉強についていけない ・友達とトラブルがある ・先生とトラブルがある ・夫婦関係が悪い ・社会規範をどうに教える？ ・子ども会等、親も共に参加 ・子ども同士の遊びを援助 ・塾やお稽古をどうする？	問題として考えられるもの ・反抗的（悪い態度・口答え） ・スマホの扱い ・悪い成績 ・部活でのトラブル ・男女交際 ・進路問題 ・先生・先輩・友達とのトラブル
II	いつも良い関係でしよう！（楽しく子育てするためのコツ） 1. 感情への認知を深める ・自分の感情を理解する ・子どもの感情を言ってあげる 2. 問題の仕分け練習 ・出来事（事実）を見極め問題を仕分ける 3. 問題対応の練習 ・「誰の問題か」に応じて解決法を考える	・子どもの個性を理解する ・ワガママをどうする？ ・上手な選択肢の与え方 ・「感情の反射鏡」練習 ・自分をいたわる ・タイムマネジメント ・「行動の目的」を知る	・感情の語彙力増強（リフレイミングカードを使って） ・傾聴訓練 ・問題解決 ・ルールやマナーを教える ・「行動の目的」を知る	・成長について考える ・社会問題や社会規範について子どもと共に考える ・子どもの考えや感情を認める ・傾聴訓練 ・問題解決 ・自制心を養う ・「行動の目的」を知る
III	子育ての力量アップ！（対外的な問題も上手に解決） 1. ABCサイクルを深める ・「認知の歪み」や「禁止令」を知る ・「論理的结果」の使い方を深める 2. より複雑な問題への対応と解決 ・子ども同士のトラブル ・親同士のトラブル ・幼稚園や学校とのトラブル	力を掛けない上手なしつけ 威圧感のない言い方練習 子育てを楽しむ具体策 将来への備え	傾聴訓練 問題の仕分けを上手に スマホの扱い方 家族で楽しむ工夫	行動をどう把握する？ 傾聴訓練 問題の取り上げ方と解決方法 将来への不安にどう備える？

感想・まとめ

- 親教育はアドラーに始まりドライカースに引き継がれ、ディンクメイヤーとマッケイがゴードン、ギノットの考えを加えたプログラムを作成、更にポプキンがエリスやロジャースを加えDVDで視覚化した教材を開発。
- 筆者は現場の親たちの困ったに適切に応えられる内容を盛り込み、良い親子関係づくりのワークを満載したテキストを試作。
- コロナ禍でワークショップを開催できず効果検証ができなかった。今後の開催で検証を繰り返しつつ、より良いものを作成し続けたい。

指導教員コメント

自身が27年にわたって実践してきたAPプログラムについて、その体験のみを振り返るのではなく、その背景や歴史などについても学術的に検討することで、自身の体験を親教育という大きな流れの中に位置づけることができている。

そしてその流れに基づき、未来の親教育の理想的なあり方について丁寧に考察し、さらにその実現に必要なワークやテキストの開発も実現したことが独創的であると考えられる。

久木山健一